

「正しく神を礼拝する四原則」
出エジプト記 20章1～11節
～モーセの生涯（7）～

はじめに

今回は、モーセの生涯の7回目です。モーセの生涯の一つ目の大きな山が「出エジプト」で、二つ目は「十戒」が与えられたことです。十戒が与えられる前に、前回学びましたように、神は、神の民イスラエルが選ばれた目的をはっきりお示しになりました。そして、神の民が生活していく基準としての十戒をお与えになったのです。この十戒は、神の民だけでなく、すべての人々に対する神の変わらないみこころです。

1 十戒の序言と構造。

この十戒には、その前提が示されました。そして、その構造も二部から出来ています。

(1) 十戒の前提。

「神、主」。これは、神が「天地の創造主である」ことの宣言です。神様は私たちをお造りになった方であり、神の民の神、主なのです。

「エジプトの国、奴隷の家から連れ出した」。これは、神が「贖い主」であることの宣言です。

適用：神は、神の民イスラエルの創造主であり、贖い主でもあるのです。ですから、神の民にとって、神の戒めを守る義務があります。

神は、キリストによって、すべての人々を贖ってくださいいます。ですから、今日、イエス・キリストを信じる者にとっても、神は私たちの創造主であり、贖い主なので、キリストを信じるものは、この十戒を守る義務を持っています。

(2) 十戒の構造。

十戒は、二つの部分から成っています。

* 神に対する戒め（正しく神を礼拝する四原則）。

* 人に対する戒め（正しく人を愛する六原則）。

2 正しく神を礼拝する四原則。

- (1) あなたは、わたし以外に、ほかの神々があってはならない。ー礼拝の対象ー
- (2) あなたは自分のために偶像を造ってはならないー礼拝の方法ー
- (3) あなたは、あなたの神、主の名をみだりに口にしてはならないー礼拝の態度ー
- (4) 安息日を覚えて、これを聖なるものとせよ。ー礼拝の時ー

今朝はこれらのうち二つを学びましょう。

- (1) あなたは、わたし以外に、ほかの神々があってはならない。ー礼拝の対象ー

正しく神を礼拝する第一の原則は、正しい神を礼拝することです。

では、どれが正しい神なのでしょうか。聖書は、天地万物の創造者であり、私たちの贖い主である神を礼拝すべきであると教えています。その神が正しいことは、どうして分かるのでしょうか。それは、神の啓示の書である聖書があるからです。聖書がなければ、神を正しく知ることが出来ません。

適用1：日本にはたくさんの神社があります。おもしろいのは、参拝者は、そこに祭ってあるのがだれであるかに、あまり関心がないことです。要は、神社に行ってもかくお参りをすれば気が済むのです。ですから、伊勢神宮でも、真言宗のお寺である川崎大師でも、近くの氏神様でも、どこでもいいのです。「なにもののおわしますかはしらねども もったいなさに涙こぼるる」です。

このことについて、宗教学者の島田裕巳氏はおもしろいことを言っています。「私たちが初詣に行ったとき、祈りを捧げる存在が、一神教において信仰される神と同じものだと言ったとしたら、それは言い過ぎだろうか。私は、決して言いすぎだとは思わない。神とは、この世を超越した、いっさいの属性を持たない存在である」。つまり、言いたいのは、人々は、知らずに、天地の創造者を礼拝しようとしているのだということです。

私は四国の田舎で伝道して、そのことがよく分かりました。農家の人々はお祭りをします。それは、作物がと

れるように神に祈るのです。神社はありますが、そこに何かがついてあるわけではありません。人々は、天の神に祈っているのです。

適用2：われわれ日本人は、先祖を大事にすると言われていす。ですから、家に仏壇をおき、外には先祖代々の墓を造ります。先祖が誰であるかは問題ではないのです。先祖に、泥棒がいても、人殺しがいても、先祖を大切にします。

しかし、先祖をずっとたどって、最後の一人にまで、行き着いたとします。そうしたら、その先祖を造ったのは、だれかということになりませんか。その最初の先祖を造ったのは、天地の創造者である神様なのです。ですから、先祖崇拜を本当に大切にすれば、先祖をお造りになった神様を大切にしなければならないはずです。ですから、天地の造り主である神様を大事にしない先祖崇拜は、本物ではありません。

(2) あなたは、自分のために、偶像を造ってはならない。一礼拝の方法一

二番目の戒めは「偶像を造ってはならない。それらを拜んではならない。それらに仕えてはならない」です。これは、「礼拝の方法」についての教えです。

私たちは弱いので、目に見えない神様を目に見える形しようとしす。それを神様は、堅く禁じておられます。それは、人間が造り出したものであって、神ではないからです。

イザヤ書 44 章 9 節から 22 節を読みましよう。

適用：キリスト教も、カトリック教会などでは偶像と思われるものがあります。キリストの十字架像、マリヤ像等。礼拝の対象ではなく、像を通して神を礼拝すると説明しているようですが、十戒の第二戒に照らしてどうでしょうか。

仏教でも、初めは釈迦の教えを守ることに偶像はなかったようです。しかし、500 年ほど経って、大衆化が起こり、ヒンズー教の神々が入って来ました。帝釈天、毘沙門天、弁天、大黒天など、すべてインドの神々です。

ギリシャの影響で、仏の像、仏像も作られるようになりました。現在では、釈迦の教えを学ぶことより、仏像を拜むことの方がほとんどになっています。

キリスト教の宣教でも、カトリックは人々が文盲である

というので、絵や像で福音を示そうとしました。それに対しプロテスタントは、偶像ではなく「ことば」によって福音を伝えました。そのためには人々に文字を教え、教育することが必要でした。その結果、プロテスタントが広まった国々は発展し、カトリック地域は遅れを取りました。

聖書は、偶像による礼拝を堅く禁じています。それは、本当の神様を忘れてしまうからです。キリスト教も、仏教も偶像礼拝に陥ってしまいました。そこに人間の弱さがあります。ですから、神様は、偶像礼拝を堅く禁じる戒めを二番目にお命じになったのです。

適用：私たちクリスチャンは、神のみことばに従い、正しい神を、正しく神を礼拝することを求められています。

黙々と、たんとと主のみことばである聖書に従って生き、神様を礼拝する。これがクリスチャンです。そうしないならば、名前だけのクリスチャンとなり、主から離れてしまい、とうてい人々に神様をあかしすることができないからです。

結論

神様は、神の民が正しく神を礼拝する原則をお示しになりました。

では、イスラエルはその後、この神様の戒めをを完全に守れたでしょうか。残念ながら出来ませんでした。神の民は神に背き、墮落していったのです。

そのために救い主イエス・キリストがお出でにならなくてはなりませんでした。そして、私たちの背きの罪を十字架で贖ってくださいました。

適用：使徒パウロは、ローマ人への手紙 8 章 3-4 節でこう言っています。「肉によって無力になったため、律法にはできなくなっていることを、神はしてくださいました。神はご自分の御子を、罪のために、罪深い肉と同じような形でお遣わしになり、肉において罪を処罰されたのです。それは、肉によって歩まず、御霊に従って歩む私たちの中に、律法の要求が全うされるためなのです」。

正しく神を礼拝する四原則のうち、二つを学びました。イエス様は、「神は霊ですから、礼拝する者は、霊とまことによって礼拝しなければなりません」と教えてくださいました。正しい神を、正しい方法で礼拝していきましょう。

